

タマリハ 小嶋先生に聞く!

タマリハ新聞

第10号
発行所
多摩リハビリ
テーション学院
専門学校

高校時代が私の青春そのものでした♡

母を亡くしたことで医療の道を

保育園のころ、お昼ごはんを残して、先生によく叱られちゃう子どもでした。小学生の頃は成績は普通。中学では少しずつ成績が上がりました。高校ではさらに勉強をしっかりとコツコツとやるようになったので、更に成績が上がりました。高校で一日取材をするという貴重な体験をさせてもらい、警視総監へのインタビューをした際に、時効の捜査についてと少年犯罪について質問をしました。主に刑罰に関する話や、少年犯罪者の更生や指導に関する話を聞きました。すごく緊張したのを覚えています。警視庁内にドラマで見るような、記者クラブがあって衝撃を受けました。高校が一番充実していました。友人とも価値観などが合って楽しかったです。なんと野球部の憧れの先輩とお付き合いしたことも!野球部でマネージャーをしていた先輩が驚いにくれたりして、まさに青春だったなあ(しみじみ)。2歳の時に母を亡くして、漠然と医療の道を考えるようになりました。看護師、医師は特にピンと来ませんでしたが、スポーツや医療に関わる理学療法士を目標することに。



実は先に知ったのは作業療法士だったのですが、職業理解が足りていませんでした。とは言え、理学療法士がプロスポーツのサポートをするのは、ごく一部。スポーツ以外のことに興味が出てくると就職先の幅が出てきました。仕事ではリハビリだけでなく、



(患者様が)自分と関わる時間くらいは楽しんで欲しいと思ひ、愚痴を聞いたり雑談したりしました。陶芸や作業的なことに自信がなかったけど、今思えば作業療法士も向いていたのかもと思います。現場では理学療法も作業療法も仕事内容に差がありませんでした。患者様との関わりの中でも特に高校生、小・中学生など若い人のサポートが楽しかったです。人と話をするのが好き、とにかく人が好きで教員になりました。また急性期で働いていた頃、病院ではリハビリの優先度が低く、合間を縫ってリハビリを行っていました。多職種との関係作りがとても大事です。学院でもそういった取り組みを行っています。



好きなことや趣味、得意なこと教えて!



「名前をすっかり覚えて、一人一人をちゃんと見るように、また性格や好き嫌いを把握するようにしています。指導に偏りをなくして、満遍なく接したいし、たくさん話をしたいんです。手がかかる学生ばかりに注力してしまわないように。質問などはなるべく早く回答する。しっかり調べて解決してあげたいですね。悩みなどは共感するようにしています。勉強などのアドバイスは解決型です。相手がどう求めているかを大切に心掛けています。」



進路で悩んでいるアナタへ
特に高校生なら悩むのが当たり前。進路を決めている人のほうが少ないし、全員が理解したうえで来るわけじゃないんです。自分の中で「これなら続けられる」くらいの覚悟で十分。逆に固い決意が折れちゃうこともあり。少しだけでも理学療法に興味があれば、入口だけでも見てほしいと思います。志などは特に笑。人が好きなら絶対楽しい仕事です。その人のために何が出来るかを考えられれば、すごくいい仕事だし、とにかく楽しいです。患者様が亡くなるなどの、しんどいと思うことはありますが、PTを辞めたいと思ったことはありません。迷っている人こそ、一度来てみてほしいです。

「ちやちやちゃん」と見る」編集後記

そう話してくださった小嶋先生は、普段からよく笑う活発なイメージの先生です。高校生の頃ソフトボール部だったとのことと納得!学生の「個」をしっかりと見ることが大切になっているという思いが伝わってお話でした。学生さんたちに囲まれている小嶋先生は、ごく自然に溶け込んでしまっ、しっかり者のお姉さんの存在。背伸びせず、同じ目線で話してくれる素敵な先生です!

多摩リハビリテーション学院専門学校
 作業療法学科・理学療法学科 (高卒3年課程)
 言語聴覚学科 (大卒2年課程) 介護福祉学科 (高卒2年課程)
 〒198-0004 東京都青梅市根ヶ布 1-642-1 TEL. (0428)-21-2001 FAX. (0428)-21-2410

